



414  
A 804  
2



松秘第十三號

「フリッピン」島ニ於ケル居留帝國臣民ノ  
保護及軍事視察ニ関スル報告

第二回

明治三十一年六月二十七日 於馬尼刺

松島艦長遠藤喜太郎

海軍大臣侯爵西郷從道殿

一 一般ノ現況

第一回報告ト大差ナシ今其異ナルモノヲ掲クレハ大凡  
左ノ事項ニ過キス

(陸上)

存



先般東馬尼刺市街各商店ハ殆ト閉店シ早ニ  
避難準備ニ汲々トシテ物情頗ル穩ナラス追日寂  
莫ヲ極メタリシカ爾後十數日ノ間叛徒ハ府外約  
一千五百乃至二千米突ノ巨島ニ接近セルニモ不拘徒  
ニ曠日彌スヘキノ戰鬪ナク時々幾分ノ銃砲ヲ聞クニ  
止マリ實ニ其決極ヲ想像スルニハルヘキ形情ヲ送出  
セシヲ見ス遷延此ノ如クナルカ故ニ市民モ爲メニ習  
慣化セラレ其恐怖心ヲ減少セシモノ、如シ然レハ内  
地ノ交通ハ全ク遮断セラレ、カ故ニ物價ノ騰貴糧  
食ノ欠乏ハ愈甚シキニ至ラントス

(城廓之内外)

城内ノ景況ハ依然變化ナシト虽モ糧食彈藥ハ既  
ニ充實セシモノ、如シ然ルニ城外ハ日々囚徒ノ一隊ヲ

使役シ其防禦準備ニ忙ハシク展望ノ目的ヲ以テ  
爲セル樹枝ノ折倒ハ今ヤ其歩ヲ進メ外濠ノ前面  
ハ大小トナク悉ク樹身ヲ断伐シ之ヲ集收シテ野  
堡ニ於ケルカ如ク樹枝ノ被覆ヲ施シ鹿柴ヲ造リ  
テ之ヲ濠中ニ埋メ外濠ト城壁トノ間ニ於ケル斜  
面ニハ二重ノ射架ヲ築キ以テ最終ノ防禦工事  
トナスモノ、如シ

二 河レックレ河口ノ閉塞

(目撃シタル其方法)

今回ノ戰事ニ關鍵シ船舶ノ出入一層頻繁ヲ要  
スル場合起リ先般未一時河口ノ閉鎖ヲ開放シ  
タレ本月初十四日ヨリ再ビ之ヲ行フノ已ムヲ得サル  
危期ニ切迫セルヲ以テナラシカ即ケ馬尼刺燈台直

下ニ於テ其南岸側ニ「ライター」船ニ類スル荷物  
船約五六十噸ノモノ十二隻ヲ縦ニ併列シ数条ノ船索  
及鉄鎖ヲ以テ之ヲ繫維シ其北岸側ニ六更ニ一隻  
ノ「ライター」ヲ繫キ約十米突ヲ開放セル閘門ヲ  
設ケ小舟ノ通路ニ充テ其後方約百米突河上ニ  
溯リタル位置ニ於テ其量約百噸ヲ雍セル「スクナ」  
形帆船三隻ヲ一線ニ横列シ船首ヲ河上ニ向ケテ  
沈置セリ即チ其二隻ハ北岸側ニ近ク横倒シ他ノ一  
隻ハ河ノ中央ニ在ッテ直立セシメ以テ通航ノ防障  
トナセリ然レモ北線内ニハ今猶自然ノ航門アルヲ  
以テ小舟ノ往来ハ現ニ支障ナシ

(其觀察)

降雨毎ニ該船内ハ溜水シ風浪起ルニ隨ヒ漸次下

流ニ移動シ現ニ其二三隻ハ口外ニ流出セリ此ノ如  
キ狀況ナルニ拘ラス今假リニ之ヲ降雨風浪ニ委セサ  
ルモノトナスモ決極閉鎖ノ目的ヲ貫徹スル事ニ於  
テ薄弱ト認定セサルヲ得ス況シヤ其現況ヲヤ

三

西國小砲艦「セブル」繫維

(位置)

「スペイン」橋ニ近キ下流南岸側

(目的)

蓋シ其目的叛徒ノ未襲ニ際シ「スペイン」橋及  
其附近ヲ防禦スルニアルモノ、如シ

四 避難者ノ退艦

(其事由)

本官ハ當人等ノ希望ト叛徒ノ情況ニツキ従来

ノ經過トヲ參考シ目下馬尼刺府ハ叛徒ノ重圍ニ  
 陥ルト虽氏果シテ府中ノ危険ハ猶時日ヲ要スヘキ  
 モノアリト思考セシニツキ去ル六月十八日ヲ以テ三増  
 領事ハ照會シタル處右本人等ノ希望ニ任シ  
 度旨回答ヲ得六月十八日及十九日ノ兩日ニ於テ避  
 難者十一名ヲ退艦上陸セシナタルヲ以テ現ニ一ツノ  
 避難スルモノナシ(第一回報若参照)

五 叛徒海上之交通

(目撃事シタル事實)

馬尼刺灣内沿岸ニ於ケル交通ハ公然叛徒ノ旗  
 章ヲ樹テル小蒸気艇若クハ土人舟ニ依リテ決  
 行セラル今其旗章ヲ掲ク如次



或人曰ク叛徒ハ其旗章ヲ改正シ従来ノ旗章青  
 赤両色界線ノ中央ニ一個ノ星章ヲ加ヘタリト

六 米艦隊ノ動靜

(目撃事シタル事實)

六月二十一日米艦「ヒウマカロク」飄然カビテ錨地ヨ  
 リ馬尼刺燈台沖各中立國船舶、碇泊場ニ来  
 リ各船舶ノ邊リヲ一周シ其固有錨地ニ碇港セリ  
 (其觀察)

蓋シ其目的沿岸ノ偵察ニアラスシテ各國軍艦  
 ノ舉動ニ注目セルモノ、如シ

七 獨逸艦隊ノ集合

柳モ明治三十二年六月八日本艦ノ馬尼刺灣ニ入ルヤ獨逸艦ハ只「イレネ」及「コルモラン」ニ隻在泊セルノミナリ然ルニ其後漸次其勢力ヲ益ニ集中シ又糧食等供給ノ爲メ汽船「ペトラーク」ヲ雇入シ持久之策ヲ採ルモノ、如シ六月二十日ニ獨逸東洋艦隊司令長官「テイトリッヒ」ノ旗艦「カイゼル」ヲ始メトシ「カイゼリ」ノ「オースタ」ヲ「ブリセス」ウイールムニノ五艦及運送船「ペトラーク」ヲ見ルニ至リ猶殘餘ノ軍艦モ追日入港スヘシト稱ス或ル有力ナル西國將校等ノ稱スル処ニ依シハ歐羅巴歴史ノ關係ヨリ獨逸ハ其艦隊ヲ以テ西國派遣新艦隊當灣到達迄西國ヲ保護シ米

艦隊ノ行爲ヲ強制セシトスルニアリト傳ヘテ相慶スルモノ、如シ素ヨリ之レヲ信スルノ價值ナシト雖モ亦以テ西人が如何ニ獨逸ニ依頼シ居ルヤヲ伺フコ足ラシ蓋シ獨逸艦隊ノ此舉動ノ奇觀卓ニ其居留民ノ保護ニ止マルモノトハ認メ難ク必ス時機ノ至ルニ何カ企圖スル處アルモノ、如シ我領事ヨリ聞ク処ニヨシハ獨逸ハ間接ニ西軍ヲ援助スルノ報酬トシテ「リシガエ」シ灣ノ「スワール」ヲ要求セシト云ヒ或ハ吾ナ「シシダナラ」島ナリトモ之ヲ「風説」アリト然シテ是等ノ風説ハ英領事館ヨリ聞知スト雖モ果シテ如斯要求ヲナセシ確証トスヘキモノ一モ無之唯後チノ參考迄ニ爰ニ記ス五月二十三日獨逸「ブリセス」ウイールム」號出港シ

二十四日未明「イレネ」號出港然して二十五日ニ旗  
艦「カイセル」號モ亦出港ス但し「プリッセ」  
ルム及「カイセル」ハ「マリベル」  
「リシガエン」  
「カイセル」ハ「マリベル」  
「リシガエン」  
「カイセル」ハ「マリベル」  
「リシガエン」

八 在港各國軍艦

一 米軍艦ハ前報ノ如ク「カビテ」ニ碇泊ス「バルチモア」  
號ハ六月十七日出港シ未ダ碇港セス蓋シ米國ヨ  
リ送兵ノ運送船出迎ヒ、爲メ出港セシモノ也  
ト聞ク

一 英軍艦ハ初メ當港ニ配置サレシモノハ「イムモタ  
リテイ」號一隻ノミシテ他ニ「リネット」  
「ラトラー」  
ノ二砲艦アリテ當港香港間ノ通信及ヒ當群  
島南部諸港巡航ノ役務ニ従事セシメアリ

シガ前記ノ如キ独逸軍艦逐次増加スルヲ以テ  
在馬尼刺英領事ノ請求モアリシ由ニテ急ニ軍  
艦増遣ノ「」決シ在香港ノ「ホナベンチユアー」ハ六月  
ニ「」入港ス但シ同艦ハ「イフィジヤ」號長崎  
ヨリ着港スレハ威海衛ニ赴クモノナリ同二十五日「イ  
フィジヤ」及「プロバー」入港シ翌二十六日「ホナベンチユアー」  
威海衛ニ向ケ出港スニ「」六日現在ノ英艦ハ「イムモ  
タリテイ」「イフィジヤ」及「プロバー」ノ三艦ニシテ其他  
一二隻ノ砲艦モ逐次着港スル筈ナリト聞ク  
一 併軍艦モ初メ當港ニ配置サレシハ「ブルイー」號  
一艦ノミナリシモ独逸艦増遣ト畧同時ニ「バスカ」號  
急ニ東京地方ヨリ派遣サレタリ當時同艦長訪  
問、際、談話ニ余ハ急ニ當港ハ派遣サレタルモ糧  
六

一 獨軍艦ハ前記ニ詳ナシハ爰ニ掲ケス

食石炭等不充分ナルハ孰シ長クハ當港ニ碇泊スルヲ能ハス同補給ノ爲メ近日「カイゴン」ニ赴クト果シテ同艦ハ六月二十三日「カイゴン」ニ向ケ出港セリ同二十五日佛國司令官海軍少將「バドリエール」氏旗艦「バイヤール」履門ヨリ入港ス同日司令官ノ談話ニ「バリーヨリ」電信ニテ急ニ當港ヘ回艦ヲ命セラシタリト

外國艦船出入表 (六月二十六日)

國旗	艦船名	入港月日	出港月日
米國用船	サヒロ	カビテ 六月十八日	カビテ 六月十七日
米國軍艦	バルキモア	カビテ 六月十八日	右 六月十九日
叛徒汽船	未詳	カビテ 六月十八日	マニラ 六月二十五日
獨國軍艦	カイゼル	マニラ 六月十八日	マニラ 六月十九日
右	コルモラ	右 六月十九日	マニラ 六月十九日
英國汽船	未詳	カビテ 六月十九日	全上 六月十九日
獨國汽船	ペトラケ、コリン	マニラ 六月二十日	全上 六月二十日
獨國軍艦	プリシセス	右 六月二十日	右 六月二十日
英國汽船	ウセルヘルム	右 六月二十日	右 六月二十日
英國軍艦	エスメラルダ	右 六月二十日	右 六月二十日
英國軍艦	ボナベンチヤ	右 六月二十日	右 六月二十日
右	ラットラー	右 六月二十三日	右 六月二十三日

記事

本國ヨリ到着スヘキ運送船ノ迎ヒノ爲メト傳フ

マリベル又灣エ向フ

午前ニ出港シ午後ニ入港ス但シ操練等ノ爲メナラシ

マニラ獨軍艦ヘ糧食供給ノ爲メ来ル

特許ヲ得テ郵便荷物避難者ヲ搭載スルモノ

威海衛ニ向ケ

イロイロニ向ケ

國旗	艦船名	入港月日	出港月日	記事
佛國軍艦	パスカル		マニラ 六月三十日	サイブレエ向ケ
獨國軍艦	イシネ		右全 六月十四日	
米國汽船	未詳	カビラ 六月十四日		
英國軍艦	イフセニヤ	マニラ 六月十五日		
右全	プロバー	右全		
英國汽船	源生	右全		香港ヨリ
佛國軍艦	バヤール	右全		廈門ヨリ

九 中立陸地畫定ニ関スル協議

六月二十四日在馬尼刺各國領事ハ人命保護ノ爲メ市中ニ於テ中立地ヲ設クルノ必要ヲ主張シ比律賓群島總督ニ其承諾ヲ求メタリ然ルニ其區域ヲ決定スルニ當リ各國各々利害ヲ異ニシ其畫定並ニ護衛ノ方法ニ付テハ未タ充分ナル決議ヲナスニ至ラス然レニ概ニ其指定ス可キ地線ハ左ノ如クナル可シト云フ然レニ果シテ米國司令長官並ニ叛徒ノ首領カ之ヲ承諾スルヤ甚ダ疑フ所ナリ

(其指定區域)

「バシク」河口北岸ニシテ現知港事廳附近英國假領事館位置ヲ西端トシ北東ビンド沿ヲ中斷シ大煙草製造所ノ北端ヨリビンド區ニ入り Paikaran



沿一帯ヲ以テ界セル一線 Jan Kwong 區ノ一部ハシク  
河邊 Colquhoun 橋以西ノ陸地

十 カビテ視察報告

六月二十一日カビテ視察ノ爲メ米國司令長官へ添書  
ヲ送り本艦乗組士官ヲシテ同所ヲ視察セシム其  
報告尤ノ如シ

六月二十一日午前米艦「オリシピヤ」乗組少尉某ノ案  
内ヲ以テカビテ視察ヲナス而シテ其大体ハ軍艦ノ秋  
津洲ノ報告ト異ナル所ナキヲ以テ唯其遺漏スル處  
ヲ掲クシハ尤ノ如シ

(1) サレガレノ砲台

該半島ニ於テ有力ノ砲台タリシハ唯サレガレ  
ノ砲台ナリトス此砲台ハ六吋後裝砲三門(ホント

リヤナラシ)ニシテ戦後西軍ハ自ラ砲台ヲ破  
壞シ去リ今ハ二門ヲ残スル此砲台ヲ去ル南  
方海濱ニ四吋七ノ後裝砲一門アリ(少尉某ノ  
云フ所)

(2) カビテ砲台

其他ノ砲台ニ備フル所ノ者ハ皆前裝砲ヲ造  
船廠ノ一端ニアル砲台ノ如キハ多數ノ砲ヲ有スル  
モ皆旧式ノ前裝砲ニシテカビテ湾内ノ防備ヲ  
ルニ過キスレテ發砲セシ痕跡ナシ又造船近埔  
頭ノ近傍ニ六吋前裝條砲二門アリ是亦  
發砲セシ痕跡ナシ

(3) 米軍陸上占領

米國海兵少尉一名ノ率ユル海兵十六名陸上

ノ軍港區域内ヲ守備セリ米艦隊司令長官  
ハ兵員ノ北域内ヲ出ツルコトヲ禁スト云フ  
此區域内ニハコアドミラルノ居タリト云フ官衙武  
庫病院兵營罪人拘留所造船廠及之ニ屬  
スル諸工場及倉庫等アリ

(4)

諸建築物内部ノ有様  
造船廠ハ番械等凡テ其終ナルカ如シ  
兵舎官衙等ハ室内ニ椅子テーブルノ外一物  
ノ存スルナシ思フニ西軍ノ有セシ小銃野砲  
等ハ皆叛徒ノ手ニ委シタルニハアラサルナキカ過  
去屢耳ニスル所ノ米國ハ叛徒ニ武器ヲ給セリ  
ト云フハ此等ヨリ出テタル説ニハ非ルカ

(5)

キヤビテ市

キヤビテ市ハ全ク米軍ノ台領外ナリ市中ニハ多  
數ノ叛徒アツテ西軍ノ士官兵卒ハ捕虜トナ  
リテ北叛徒ノ手中ニアリ

(6)

叛徒ノ汽船

キヤビテニ沈没セル西國軍艦及米國ノ捕獲  
セル艦船ハ秋津洲報告ノ如シ近着ノ外輪汽  
船五六百噸ノ者一艘アリ叛徒ノ船ナリト云フ叛  
徒ノ旗ヲ翻セリ

(7)

叛徒所用ノ旗

叛徒所用ノ旗ハ左圖ノ如シ



+

(8) 案内ニ来レル米國海軍少尉ハ事叛徒ニ関スルモノハ皆不知ト云フ故ニ其詳細ヲ知ルニ由ナシ右報告准也

明治三十一年六月二十日

原大尉

馬尼刺陸軍病院並ニカヒテ造船廠參觀記事  
海軍大軍醫 百瀬 一一

馬尼刺市ニ於ケル西班牙軍ハ初ノ米艦ノ砲撃ヲ恐レテ之ヲ避ケルカ爲メ市ノ内部ニ軍隊ヲ移シ  
彈藥ヲ運搬シ從テ從來ノ陸軍病院モ海岸ヲ去ル  
ル稍ヤ遠キ位置ノ各寺院ニ分配轉移セラレタリ  
然ルニ陸上ニ於テ市近圍ノ各方面ヨリ叛徒ノ攻撃ヲ受ケ却テ海上ヨリノ危険ハ少ナキニ至ルヲ認メタリヨリ  
再ヒ城内ニ退結スルニ至リ此ノ如キ有様ナルヲ以テ  
病院ノ移動開閉等ハ常ニ定マラサル所ナリトス初ノ  
叛徒ノ攻撃ヲ受ケルヤ野戦病院トシテサレシゲル  
所ニ於ケル一豪商ノ家屋倉庫ヲ以テ之ニ充テタリ  
六月九日之ヲ觀ル其位置パシワク河ニ沿ヒ其上流並

ニ其近用ノ戦闘線ニ於ケル負傷者ハ直ニ汽艇ヲ  
以テ運搬シ来ルノ便アリ又之ヲ陸軍病院ニ轉送ス  
ルニ半ハ水利ヲ以テスルヲ得可シ其住屋ヲ以テ事  
務所軍医室藥室手術室等ニ充テ倉庫ヲ以テ  
テ病室ニ充ツ病床ハ百名ヲ收容スルニ足ル由  
廣濶ニシテ空氣流通先ツ可ナリ藤網ヲ張り  
木製病床ヲ具エ其他器具器械等ハ全シク普  
通ノ病院ト異ナル所ナシ近頃新クニ本國ヨリ着  
タリトテ得色ヲ以テ示サレタル硝子板製手術台ハ  
結構完備美觀ナレト台上深ク積ル塵埃ト  
赤褐色ヲロモセル器械類ハ西人ノ意トセサルモ  
ノ如シ當時在院患者二十八名重傷者ナシ其過  
半ハカヒテ戦闘ノ時負傷シタルモノナリト云フ

ニ三種ノ傷者運搬具アリ一ハケニバ製ニテ担棒ハ檜ノ木  
杆ニシテ鉄骨鉄脚ヲ具エ護謨布ノ両面覆蓋ヲ具エ  
其兩側ニ各一ノ金屬製ニテ開閉ス可キ凹形ノ格子  
様換氣孔アリ重量ハ本邦ニ於テ普通使用スルケニ  
担荷ノ少クモ二倍ヲ有ス可シ他種ハ全ク竹製ニシテ亦  
脚ヲ具フ覆蓋蓋ナシ前者ヨリ稍輕シ甲ハ西兵ヲ運  
搬シ乙ハ土兵ヲ運搬スルニ供スルモノナリト云フ

六月二十日艦長ノ照會ニヨリ米艦オリンピヤ士官ノ  
案内ニヨリカヒテノ造船所ヲ見ル今港内ニハ米艦  
ノ爲メ打テ沈メラレタル西艦十隻半バ燒失シタル橋  
頭破壊シタル烟突ヲ水面ニ顯ハシ狀慘悴以テ當時  
西軍ノ死傷者身數ナルヲ察スヘシ造船廠ハ一城  
廓ニ接シ市街ニ隣リシタル一區劃ニシテ規模小ナリ

城郭ハ當時要ナキヲ以テ閉鎖セラレ所々古式ノ砲  
ヲ見ル市街ハ叛徒ノ台領スル所トナリ叛徒ハ西ノ捕  
虜數百ヲ茲ニ嚴守シ幽閉ス表面上造船所内  
米軍ト交通ヲ遮断ス所内ハ各種ノ造船工場  
並ニ銃砲彈丸製造工場アリテ其一部ニ米國治  
工木工等ノ就業セシヲ見シモクハ乱雜所々砲  
丸ノ痕跡アリテ戦後ノ光景依然タリ片ハ海岸  
ニ近ク建築セラレ構造稍美ナリ庭園ハ百撒ノ樹  
木能ク繁茂シ異花咲キ乱シ頗ル爽快ヲ感ス  
美花雜樹ニ更シキ熱地トシテハ實ニ貴重ノ花園  
タル可シ海岸ヨリ最モ隔リタル部ニ平屋ノ一小  
建築アリ之レカニアカスニ於ケル海軍病院ノ派出  
所ノアリシ處ナリ木造亜鉛板ノ屋根ニシテ床ハ煉

瓦ヲ布キ殆レト地面ト高サヲ同フス病室ニケアリ  
藤網木製ノ病床合セテ二十四処々血痕ヲ見ル空  
氣流通可ナレ光線ノ射入ニ更シ其他軍医室  
藥室等アリモ皆械藥品等ハ只破壊瓶數個  
ノ痕跡ヲ殘セルニ軍医室ニ一基ノヒアテ遺ス  
指ヲ觸ルルハ忽チ艶麗塵ノ音ヲ發シ恨ムカ如ク訴フ  
ルカ如シ

米艦ノ状況ヲ聞クニカヒテ占領時ニ當リテ米軍ノ  
負傷者合セテ五名皆輕症ニシテ目下大約全治  
ニ赴ケリ現今患者ハ至ツテ少ナク各艦ニ三名過  
キス又赤痢マラリヤ等ノ症ナシト云フ故ニ陸上ニ於  
テ病者ヲ治療スル病院ヲ設クルノ必要ナク皆艦  
内ニ於テ治療スト

野菜及菓物ノ類ハ陸上ニ於テ徵發シ又ハ市ニ於  
テ自由ニ之ヲ求ムルヲ得レト牛雞肉ニ至リテハ走シク  
多ク罐詰肉類ノミヲ食ス飲料水ハ悉ク甘蒸溜  
水ヲ使用ス元來當所ハ地面尤モ低ク狹隘ノ地井  
水ナク又水道ノ設ケナシ倉庫等ノ屋根多クハ亞  
鉛板ニテ頗ル大ナル兩樋ヲ用ヒ雨水ヲ数尋ノ大ナル  
クシクニ貯蓄シテ使用ス

六月二十四日西班牙軍医総監 (Inspector General)  
ヲ訪問シ西軍傷者並ニ病院ノ状況ヲ聞クカヒテ  
戦闘ニ於ケル死傷者ハ合セテ四百名内負傷者ヲ百  
七十名トス初メマニラ陸軍病院ハ海上ヨリノ砲撃ヲ  
テ避クルカ爲メ市内ニ於テ海岸岸ヲ距ル尤モ遠シク  
寺院ニ轉シタリシカ報從ノ龍巻敷キヲ蒙ルニ六月

十五日ニ至リ悉ク城内ニ移轉シサンファンデゲオス学  
校ヲ以テ負傷者ヲ收容スル病院ニ充テ他寺院等  
五ヶ所ニ病者ヲ收容スルノトナセリサンファンデゲオス  
病院ヲ參觀スルニ規模尤モ大ナルモノニシテ過搬考  
觀セシ野戰病院モ茲ニ合併セリ此校ノ建築ノ模  
様恰モ東京劇場歌舞妓座ノ造構ニ彷彿シ  
廣キ大ナル講堂及其二階ニ教列ノ病床ヲ置キ高  
不足ヲ告ケシヲ以テ隣屋ノ廣キ廊下ニ病床數尋  
ヲ置ク病床數合セテ二百五十トス其舞台トモ稱ス  
ハキ稍高キ位置ニ繃帶材料等治療品ヲ陳列  
シ調劑所トス手術室軍医室ハ其一側ヲ區劃シテ  
使用セリ院長副長並ニ軍医四名數尋ノ看護兵  
並ニローマンカソリック信徒ノ看護婦其職ニ従事ス

現在傷者八百九十名ナリ過半銃創患者ニシテ  
其状諸般奇症頗ル多シ止血ヲ十分ニセサルコト及  
繃帯交換ハ至テ少ナキノ主義ヲ採ルモノト見え  
血液繃帯ヲ浸透スルモノ多ク臭氣從テ盛ナル  
ヲ認メタリ手術台ハ西軍医ノ尤モ得色ヲ以テ示セ  
ルモノニシテ嘗テ野戰病院ニテ見タルモノナリ番  
類ハ前回ト合シク古色ヲ帯ベリ時恰モ午餐ニ降セ  
シヲ以テ患者食餌ノ一端ヲ覗フニ我カ海軍ニ於テ  
使用スル食器大ノ器ニ米飯ヲ盛り其傍ニ一二片  
ノ煮タル甘薯ヲ付ス是輕傷者ノ食ニシテ一小肉片  
ヲ付スルモノハ重傷者ノ食トス西人ハ城内ニ竹籠リテ  
久シキニ亘ルモ糧食ニ欠乏スルノ慮ナシト公言スレ  
之ヲ以テ見レバ既ニ窮境ニ近キヲ察スルニ足リ報

徒起リテヨリ当今迄戰鬪ノ爲ノ死傷セシモノ百  
五名内四十五名ハ戦死セリ西ノ士官曰ク西兵ハ銃  
砲ヲ採リテ戦フノ際ニハ傷死者ヲ出スコトナク兵  
員ノ砲聲ヲ交代スルニ當テ常ニ相撃キセラルモノ  
ニシテ昨今一日平均二名ノ員傷者ヲ出スコトナリト云  
又西兵ハ如何ナル戦爭ヲナスヤヲ察スルニ是ル可キ  
カ当院ニ於テハ朝六時ヨリ十時迄手術ヲ行フ此時  
間ニ於テ西ノ軍医ハ我々日本軍医ノ未院並ニ自  
ラ執刀手術セラレシコトヲ希望セラレタリ  
普通病兵ハ城内五ヶ所ノ寺院學校等ニ分テ治  
療シ其數合セテ九百ニ達セリ其病状中尤モ多  
キモノハ赤痢及「マラリヤ」ニシテ「マラリヤ」ハ當時ノ  
氣候ニ於テ發スルヲ尤モ悪性ナリト云フ

